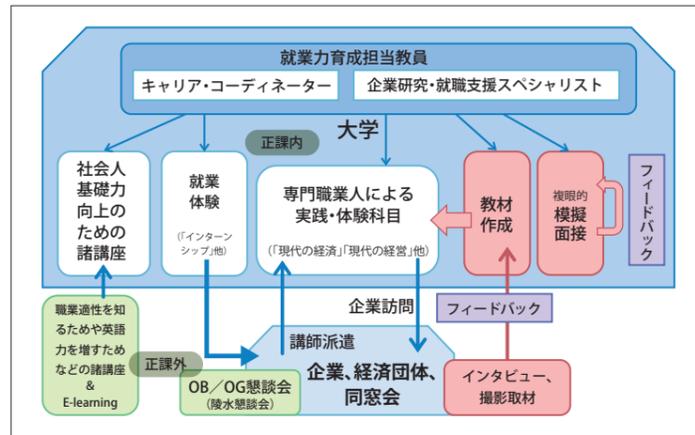


# 就業力育成支援室

## 学生が社会で活躍するための「就業力」の育成を支援

滋賀大学経済学部では、大学生が、企業や地域社会で仕事をするうえで必要となる就業力—コミュニケーションやチームワーク、プレゼンテーションや課題対応力、国際感覚など—を育成支援する取り組みとして就業力育成支援室を設置しています。ここでは、1.国内外の経済状況の変化を敏感に感じさせながら、現場感覚の鋭い学生を初年時から一貫した形で育てること、2.表面的な学習ではなく、教員によるアドバイスや情報技術を活用しながら、これまでより一段深い企業研究(職業研究)を行える資質を得ること、3.学生が自分自身や企業(職業)を複眼的に眺めることによって客観的かつ主体的な分析を行えるようにすることを狙いとした様々なプログラムを実施しています。

「複眼的フィードバックによる就業力育成」をモットーに、企業や経済団体と連携した企業人の講演会、現場体験型プロジェクトや複眼的模擬面接の実施、プレゼンテーション力やコミュニケーション力など社会人基礎力の向上プログラム、学生としての自己課題や目標設定をするマイプロジェクトのほか、メールマガジンによる各種イベントや地域でのボランティア情報の発信、地域活動や将来の働き方への相談など、特に初年時から学生の支援に取り組んでいます。



# 知識・技術・体験を身に付けた複眼的人材を創出

## 就業力育成プログラムで徹底指導

### 複眼的模擬面接で自己を客観視

企業側と求職側とに分かれて面接のシミュレーションを行う際、受講者は面接官と学生の立場を体験します。テクニックを教えるだけの一般的な面接対策とは異なり、自社に適した人材をどう募集し選考するかを考慮する一方で、様々な視点から企業を分析。どのような戦略で面接に臨むかという複眼性を養い、自己を客観視できる人材を育てます。

### 企業訪問で、就業に向けての指針や方向性を体得

企業訪問は学生にとってはビジネスの現場を自分の目で確かめることができる好機です。経済学部の同窓会である「陵水会」や県内外の経済団体ネットワークの協力を得て、就業力育成のための企業訪問を実施。平成23年度には「大阪ガス」、「関西電力」、「シマノ、自転車博物館」、「日本テレビ」、「共同通信社」などを訪問しました。また、海外では日本大手企業のシンガポール支社を訪れ、グローバルリーダーとして活躍する企業人たちに話を聞きました。

企業訪問の前後で、参加者の意識は大きく変化し、企業で働く人々を目の当たりにすることで現実味が増し、自己課題や方向性をつかむことができたという好評を得ています。



### 「就業力育成支援室」でチャンスをつかむ

平成23年4月、校舎棟3階に開設された「就業力育成支援室」は本事業の中核を担っています。3人の専任スタッフが交替で常駐。本棚には語学関連本からビジネス書、時事問題、漫画、絵本など、多種多様なジャンルの書籍やDVDを600点あまり備えており、閲覧や視聴のほか貸し出しも可能です。

取材当日、支援室を訪れた経済学科1回生の吉崎 希(よしざき のぞみ)さんは、「週に一度か二度、利用します。本を借りたり、語学の勉強をしたり、友達や先生とお話したり……スタッフも気さくな方ばかりで入室しやすく、楽しいです」とのこと。

専任スタッフの一人、柴田雅美特任准教授は「滋賀大学経済学部では学問的知識や技術に加え、多くの体験や多角的(=複眼的)な視点をあわせ持った人材育成を目的とし、支援のための設備や学習カリキュラムの整備はもとより学生からの学内外の活動や進路などの相談対応などソフト面の充実にも力を注いでいます。また学生たちが学外でも幅広い体験活動ができるよう、私たちスタッフは大学と地域を結ぶパイプ役を担っています。この支援室には地元でのボランティアやNPO活動など、ほかでは得られない貴重な情報がたくさん集まっています。自ら何かを求め、行動することでいろいろなチャンスをつかむことができると思うので、気軽に相談してください」と一層の活用を呼びかけていました。



### 複眼的フィードバックを取り入れた現場体験型プロジェクト科目

「複眼的フィードバック」とは、主観・客観の両面から対象を見つめ直し、得た結果を自分のものにするを意味します。この「現場体験型プロジェクト科目」では、学年学科に関係なく少人数で一つのテーマに取り組むため、より主体的に問題の発見や解決法を見出すことができます。

例えば、映像制作を通じたプロジェクトでは受講者自らが課題に沿って10分程度の映像を制作。それぞれの作品を、各自が見る側と見られる側、双方の視点に立って評価し、主観と客観という複眼性を体得することをめざします。平成23年度は「社会福祉法人の活動」、「商店街のまちづくり」などをテーマに制作しました。また、働き方の多様性を知ることを目的とした働き方探求プロジェクトでは、地域NPOの「学童保育」の活動を通じた地域で働く経験や、和歌山の災害復旧支援者から働き方を学び、復旧支援も体験しました。

